

会社概要

- 1.セグメント/建設
- 2.本社事務所/大阪市浪速区難波中三丁目5番19号
- 3.資本金/2,000百万円
- 4.設立年月日/昭和19年6月30日
- 5.従業員数/417人(平成22年11月1日現在)
- 6.営業収益/367億3百万円(平成21年度)

GROUP COMMUNICATION



▲現場事務所での図面チェック(上)と営業部門の打ち合わせ(下)

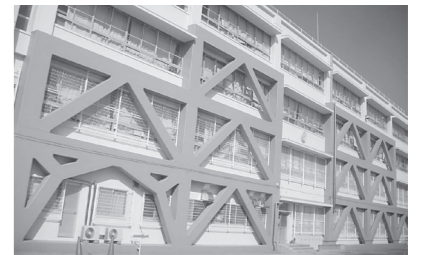
▲南海本線と高速道路との立体交差工事

▲駅バリアフリー工事の検査

おすすめミニ情報!

耐震工事や診断はお任せください

今年度、同社では数多くの耐震工事実績のもとに、小学校3校、中学校1校の耐震補強工事・大規模改修工事などを自治体から受注しました。これらの工事では、補強用の部材を壁や柱に外付けし、屋内での作業を必要としない工法を採用。授業などへの影響が少ないため好評です。また同社では、建築物の耐震診断も行っています。グループ各社で所有の建物について、耐震診断・耐震工事のニーズがありましたら、ぜひご利用ください。



沿革

南海辰村建設株式会社は、昭和19年に土木建築岸和田工業株式会社として設立。以降、商号変更や合併などを経て50年5月、南海建設株式会社と合併し、商号を南海建設株式会社としました。さらに平成7年10月には株式会社辰村組と合併し、現在の社名となりました。

事業紹介

大証2部上場の総合建設会社

南海辰村建設は、大阪証券取引所市場第二部に上場しており、当社以外ではグループ唯一の上場企業です。総合建設会社として建築・土木などの様々な工事を手がけています。平成21年度の営業収益は約367億円で、うち建築工事が約215億円(58.6%)、土木工事が約92億円(25.2%)を占めています。なお、子会社として南海建設興業、南海電設、日本ケーモエ工場の3社を有しています。

同社は、大阪を中心とした近畿圏および東京を中心とした首都圏を営業エリアの軸とし、高い技術力と品質確保の追求や企業体質の強化に努めています。また、ISO9001&14001

のダブル認証を受け、品質と環境に配慮した取組みを、全社を挙げて継続的に行っています。

マンション建設工事に注力

同社の手がける事業で最も受注額が大きいのは、マンション建設工事です。

コンクリートの蓄熱性を生かして24時間温度差の少ない快適空間をつくる外断熱工法や耐震工法など、同社は独自の技術をいくつも保有しており、高い評価を得ています。なんばグランドマスターズタワーなど当社沿線のマンションだけでなく、東京や他府県においても数多くの物件を手がけています。

あらゆる種類の工事を受注

もちろん、当社グループとして鉄道関係の工事も多く担っています。鉄軌道工事をはじめ、土木、信号通信、駅のバリアフリー施設など、様々な分野でノウハウを発揮しています。また、鉄道関係にとどまらず、なんばパークスやフレイザーレジデンス南海大阪など、流通やレジャー・サービス関連の物件も数多く手がけています。

さらには、グループ外においても、高速道路や地下鉄、ダムや下水道など地域のインフラ整備などにも貢献しています。最近では、宮崎県で行った東九州自動車道の土木工事に関して、西日本高速道路から4月に、

また成田新高速鉄道線の建設工事に関して鉄道建設・運輸施設整備支援機構から7月に、それぞれ感謝状を受けるなど、同社の施工技術の確かさは各所で高い評価を得ています。このように同社では、グループ内外を問わず、多様な部門で活躍しているのです。

皆さんも、街中で行われている工事を見かけたら、看板をチェックしてみてください。同社の名前が書かれていることも少なくありません。

明るい将来展望のために

しかしながら、近年の景気低迷は極めて深刻な状況です。工事の受注も、件数・金額とも減少しており、特に公共工事などは非常に厳しい状況であると言えます。

そのため同社では、これまで受注条件やコストの見直し、工事原価管理の強化などを通して利益が出る体質づくりに尽力してきましたが、今後は受注の確保に向けて攻勢に転じる考えです。

具体的な方策としては、選別受注の強化や見積りの厳格化によって単独での受注の拡大を図るとともに、環境関連、医療福祉関連など、新しい分野の建築工事へも事業展開を目指して取り組んでいます。

中でも同社が最も注目しているのがリフォーム関連事業です。同社では、過去に販売したマンションを中心に、耐震補強や大規模修繕のニーズが今後増加するとみており、積極的な営業活動によってリフォームの受注増を目指したいと考えています。

社長からのメッセージ

取締役社長 猪嶋光一さん



当社は今年10月、南海建設と辰村組との合併から15年という節目を迎えました。合併当時は900億円を超えていた売上が半減するなど、厳しい経営環境でありながらも、恒常的な赤字体質であったものが、黒字を確保できる体質になりつつあります。南海グループの中核企業としての自覚を持って利益の確保に努めています。

建設業においては、公共投資の削減をはじめ、受注競争の激化や景気の低迷など、依然として大変厳しい状況が続いています。このような状況下、当社は堅実な施工で施主から数々の表彰、感謝状をいただくなど高い信頼を得ています。南海グループとしての信頼感とあわせて、これを武器に受注の拡大に邁進したいと思っています。グループを挙げての営業情報のご支援をよろしくお願ひします。